

パネルディスカッション I

『同僚』のちょっとした理解とサポートが力になる
～障害のある社員が働きやすい職場づくりについて～

【コーディネーター】

宮澤 史穂

(障害者職業総合センター 研究員)

【パネリスト(話題提供順)】

星野 佳史

(株式会社スタックス 代表取締役社長)

成澤 岐代子

(株式会社良品計画 人事部)

若林 功

(常磐大学人間科学部 准教授)

『同僚』のちょっとした理解とサポートが力になる ～障害のある社員が働きやすい職場づくりについて～

障害者の離職理由の1つに上司や同僚等との人間関係の悪化が挙げられます。障害のある社員の雇用継続や仕事の成果の向上には、同僚との人間関係や、受け入れられているという感覚の有無が大きく影響します。企業内での障害者雇用の担い手は、人事担当者や企業在籍型ジョブコーチ等支援者が中心になりがちですが、実際には受け入れる職場の同僚が障害者雇用に果たす役割は大きいです。

そこで、本ディスカッションでは、昨年度終了した「障害等により配慮が必要な従業員の上司・同僚の意識に関する研究」の内容を踏まえながら、これまであまり注目されてこなかった同僚に焦点をあて、障害のある社員が働きやすく、力を発揮しやすい職場づくりについて、企業や研究者の立場から意見交換を行います。

コーディネーター	宮澤 史穂
	障害者職業総合センター 研究員

パネリスト	星野 佳史 氏
	株式会社スタックス 代表取締役社長 (神奈川県川崎市)

障害のある社員がご自身の強みを活かしながら、戦力として活躍できる職場づくりや一緒に働く同僚への理解を進めるための工夫等について、中小企業の立場から紹介いただきます。

パネリスト	成澤 岐代子 氏
	株式会社良品計画 人事部 (東京都豊島区)

「ハートフルプロジェクト」を中心とした全社的な障害者雇用の取組みと各店舗単位での障害者雇用に理解のある職場づくり、雰囲気づくりについて紹介いただきます。

パネリスト	若林 功 氏
	常磐大学人間科学部 准教授 (茨城県水戸市)

各企業の取組みについて解説をいただき、どうすれば同僚の理解が進み、障害のある社員が働きやすい職場づくりができるかお話しいただきます。